

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年
5月5日
第85号

サンザシ (バラ科)

温室の横で白い小花を沢山付けている姿が見られます。中国中南部原産の落葉低木で、日本には江戸時代に薬木として渡来し、庭木や盆栽の素材として人気があります。秋（10月ごろ）に赤色のナシ状の果実（偽果）を付けます。これを乾燥したものが生薬、山査子（サンザシ）となり、漢方医学では消化促進を目的とした消導薬として啓脾湯などに配合されます。ただ、生薬の山査子は、同属のオオミサンザシの偽果も利用でき、後者だけが中国で山楂の名で使用されます（中国でサンザシの偽果は野山楂といいますが、ほとんど使われません）。サンザシもオオミサンザシも、偽果は食用にもされ、果実酒やドライフルーツは美味しいです。さらに、同属のセイヨウサンザシの果実や花は、ヨーロッパにおいて「心臓によい」とされる民間薬として利用され、日本でも健康食品として市販されています。セイヨウサンザシの果実には、軽度の心不全に対して有効である可能性を示唆するエビデンスがあります。



キショウブ (アヤメ科)

自然植生区、池のそばで鮮やかな黄色の花が見られます。ヨーロッパ原産で、明治時代に鑑賞用として導入されました。

「ショウブ」の名はやや混乱しています。5月5日の端午の節句に菖蒲湯にするのはショウブ科ショウブという別種です。このショウブは葉が刀に似ていて、清々しい香りを持つことから邪気を払うとされ、男子の節句には軒に挿し、戸口にヨモギを吊るす習慣が各地で今もみられます。ショウブの根茎が生薬の菖蒲根（ショウブコン）、同属のセキショウの根茎が石菖根（セキショウコン）となりますが、どちらも漢方では使用されず、民間薬としてわずかに利用されるだけです。

アヤメ科のハナショウブは鑑賞用に使用され、黄色がないのでキショウブが重宝されたのですが、キショウブは繁殖力が強く「要注意外来生物」に指定され、駆除対象となっています。

今、こんな草木が
楽しめます！！